

第4回総務文教常任委員会 要点記録											
開閉会日時	平成30年6月8日(金曜日)			開会	9:59		会議場所		別海町議会 委員会室1		
				閉会	14:01						
委員の出欠	1 番	小 椋 哲也	出席	5 番	松 壽 孝雄	出席	6 番	森本 一夫	出席		
	8 番	西 原 浩	出席	10 番	小 林 敏之	出席					
出席説明員	総務部長		竹中 仁	教育部長		山田 一志	会計管理者		阿部 美幸		
	総務部次長		今野 健一	教育部次長		石川 誠	監委事務局長		小湊 昌博		
	総務課長		今野 健一	財政課長		寺尾真太郎	税務課長		宮本 栄一		
	防災交通課長		麻郷地 聡	西春別支所長		田村 康行	尾岱沼支所長		福原 義人		
	学務課長		入倉 伸顕	生涯学習課長		石川 誠	給食センター長		入倉 伸顕		
	中央公民館長		内山 宏	西公民館長		田村 康行	東公民館長		福原 義人		
	図書館長他		千葉 宏	郷土資料館長		千葉 宏	加賀家文書館長		千葉 宏		
	スポーツセンター館長		石川 誠	総務課主幹		齋藤 陽	総合政策課主幹		皆川 学		
	防災交通課主幹		深川 淳一	学務課主幹		谷村 将志	生涯学習課主幹		佐々木いずみ		
	総務課主査		山田 哲哉	総務課主査		池田 大海	学務課主査		佐藤 亮		
	学務課主査		大山 晋作	給食センター主査		成瀬 広子	総合政策課主任		金澤 亮太		
委員外の出席											
事務局職員			事務局長	浦山 吉人	主幹		松本 博史				
会議に付した事件及び会議結果など											
発言者			会議経過								
委員長 小林			9:59 開会 開催概要説明 出席委員5名、欠席委員0名								
委員長 小林			開会あいさつ あいさつ 調査案件概要説明 その他報告 総合計画策定に向けた状況の説明 第7次別海町総合計画策定に係るまちづくり懇談会を各地で実施してきた中で、子育て、少子高齢化、担い手問題、交通弱者、情報インフラの整備の意見が主なものであった。頂いた意見は、計画策定に係る各級会議で取り扱う。 地方自治法改正に伴い、現在、総合計画は議決案件ではないが、今後、常任委員会等で策定状況等を説明していく考えである。								
総務部長 竹中											
総務部長 竹中			職員紹介 4月1日付け人事異動に伴う総務部、出納室、監査委員事務局に所属する異動職員の紹介 順次、職氏名を読み上げて紹介後、各職員あいさつ								
総務部次長 今野			10:06 休けい 10:07 再開								
委員長 小林			議事1 所管事務調査について (1) 地域テレワークの推進について 内容説明 配布資料により次の項目について説明を行った。 ・これまでの経過 ・主な事業実績 ・今後の事業計画								
総合政策課主幹 皆川											
			質疑 ほり協議会は、2団体の構成であるとの説明だが、活動体制、現状は。 Genkids、オーレンスの2社の活動体制で、町がオブザーバーとしての役割。								
委員長 小林											
委員 8 番 西原											
総合政策課主幹 皆川											

第4回総務文教常任委員会 要点記録

	交付金を協議会に交付し、活動している。
委員 8 番 西原	構成組織図のようなものはあるか、交付金の総額は。
総合政策課主幹 皆川	規約はあり、現在最新の状態に改正を行うよう求めている。
	昨年度は、680万円交付している。プロモーションビデオの作成や移住のPR事業などを行っている。
委員 8 番 西原	かなりの額が交付されているのに組織は明確ではない。
	町としてどのように考えていくのか。指導、関与をどうするか。
総合政策課主幹 皆川	現在の会長は、Genkids代表の広田氏が代表になっているが、現在は、(株)ほらりの代表として本事業の運営に関わっている。交付金を交付している以上、体制、規約の整備を指導していく。
	交付金の内訳として、PRブースの費用や旅費などに使用されている。
総務部長 竹中	これまでの団体の変遷を経て、現在の活動体制となっている。
	地域おこし協力隊員が活動に関与し、力を尽くしている。
	交付金の使途については、プロモーションビデオ作成や移住者獲得に向けたPR等、活動状況を確認する限りでは、妥当な活動をしていると判断して活動団体のわかりにくさを解消するための団体の整理を求めていく。
委員 8 番 西原	団体名が似ているので会計の整理が気になる。
総務部長 竹中	同じ名前がついていてわかりにくい、収益事業に交付金が充てられないよう、町はしっかり事業を管理している。
委員 8 番 西原	しっかり確認してほしい。
委員 1 番 小椋	4点確認したい。
	1.対外的な実績が下がっている。町外の外部団体による協議会の関与がなくなり、新たな連携先を探るのか方針を確認したい。
	2.人材育成のフォローアップについて、セミナーの内容がマンアックなため、起業を志す人にとっては有益であり、起業の成功者が1人現れるだけでも十分な効果と考える。フォローアップの状況は。
	3.団体の取り組みを見ると、プロモーションビデオ、デザインなど努力しているが、その作成によりどのような効果があると町は考えているのか。せっかく作ったものをどのように使っていくのか。
	4.空き家情報など、農業分野と連携して取り組む考えはあるか。
総合政策課主幹 皆川	1.外部の会社のあらたな関与は難しいが、大学のゼミ等との関係づくりを考えてみたい。
	2.30年度にはニーズのあるWEBサイトの制作に係るセミナーを行う予定である。
	3.映像はきれいで、魅力の発信に向けて、手軽く、見やすい仕組みを検討していきたい。
	4.働くにしても住まいがないという声を結構聞いている。事業者に対して、直接情報を提供するのは難しいが、空き家情報を提供していきたい。
委員 1 番 小椋	移住促進について、農業のPRの取り組みとの連携は考えているのか。
	WEBに移住の問い合わせが寄せられるなど、効果はあったのか。
総合政策課主幹 皆川	農業との連携は、現在は検討していない。
	移住の問い合わせは、現在は把握していない。
委員 1 番 小椋	農業との連携については、農業人フェアにPRブースを構えているが、発信が弱い部分があるので、そこで映像を使うなど互いに補いながらPRしてほしい。
	移住の問い合わせの把握は重要なことと考えるので、把握願いたい。
副委員長 6 番 森本	光進の住宅の利用状況は。29年度は何件か。

第4回総務文教常任委員会 要点記録

		農村の真ん中だけでなく、便利な街中にも移住体験施設を考えるべきではないか。
総合政策課主幹	皆川	29年度は、5名移住体験されている。
		ネイチャーガイドの方のニーズがあった。各町村のお試し暮らしの口コミで体験に来たと聞いている。街中の活用も検討していきたい。
副委員長	森本	町内の空き家を何日か借りるということもできると思う。
総合政策課主幹	皆川	ご意見を参考に考えていきたい。借り上げは料金が必要となるので、いまのところは、お金がかからない町営住宅を活用していきたい。
総務部長	竹中	空き家対策を建設水道部で担当しているが、現在、空き家の把握をしているため空き家登録制度の活用を検討したい。
		テレワークについては、たまたま総務省の補助事業から始まった経緯から取り組み、数千万円をかけて事業をやってきたが、なかなか尻上がりにはならない。今後は、テレワークを核としてというよりは、移住定住の施策の一つとしてテレワークを活用するという方針とし、ご意見の農業との連携も含めて、第7次別海町総合計画に向けて、どういうステップで進めていくか検証していきたいと考える。
委員長	小林	「FMはな」の放送が別海の一部で入るが、ラジオに出ることは否定しないが、中標津に向けてなのか、別海に向けて発信しているのか、どのような話をしているのか。
		Iターン、Uターンの紹介をしている。情報発信の目的は、別海町の移住を目的としていたが、現在は、少し広く根室管内のPRをしている状況にある。
総合政策課主幹	皆川	「FMはな」に、区域拡張の問い合わせもした。議会の一般質問もいただいているので、地域コミュニティFMについては、今後模索していきたい。
総務部長	竹中	
委員長	小林	
総務部次長	今野	(2) 奨学金制度について
		内容説明
		配布資料により次の項目について説明を行った。
		・関係例規 ・制度の目的 ・支給対象者 ・支給資格 ・支給額等 ・支給期間 ・受給者の義務 ・支給の廃止、休止及び減額等 ・奨学資金の返還 ・申請時期及び提出書類 ・今年度の支給状況 ・過去3年間の支給、返還及び就職者数
委員長	小林	質疑
委員	8 番 西原	介護福祉士が対象に増えたが、その周知の方法を伺いたい。
総務部次長	今野	広報誌による周知、介護関連の道内の学校、別海高校を通じて周知をしている。
委員	8 番 西原	作業療法士の資格を取得した人の中には、就職した後に制度を知ったという人がいる。今以上の周知の徹底をお願いしたい。
		充分周知するよう努力する。
総務部次長	今野	進路指導の先生も毎年変わる。
委員	8 番 西原	働く意志があるのに働くところもなく、やむなく免除にならないという人もいると思うが、その数が5人というのは多いような気がする。
副委員長	森本	申請の段階で公募があるかどうかわからないということを何度か説明して、承諾を受けている。
総務部次長	今野	

第4回総務文教常任委員会 要点記録

副委員長	森本	もともと、別海に資格のある人が少ないから行っている事業であるから、ある程度は、別海にしっかり就職させてあげられるよう配慮があるべきと思う。 委員がおっしゃるとおりと考える。看護師がいつも不足しているが、他の職種については、募集ができないという場合もある。条件をお伝えしてもご家族がそれでもよいから、奨学資金を受けたいという場合もある。 最後までフォローアップをする事業の目的通りの運用をお願いしたい。
総務部次長	今野	
副委員長	森本	
委員長	小林	(3) その他 意見書の関係で伺いたい。ライドシェアについての考え方をお聞きたい。 町としては、制度を検討する状況にはない。
総務部長	竹中	
教育部長	山田	11:10 休けい
		11:20 再開
		あいさつ
		職員紹介
		4月1日付け人事異動に伴う教育委員会に所属する異動職員の紹介
		順次、職氏名を読み上げて紹介後、各職員あいさつ
教育部長	山田	報告
		寄宿施設入居者の事故の報告
		調査案件概要説明
委員長	小林	(4) 別海高等学校の支援について
学務課長	入倉	内容説明
		配布資料により次の項目について説明を行った。
		・高校入学者数
		・中学生卒業者数
		・別海高校3間口を確保するための割合
		・出身中学校別人数、進路状況
		・地域人材を担う別海高等学校の魅力ある学校づくり(支援事業一覧)
		・支援事業実績
		・寄宿施設入居状況
		・寄宿施設に関する協定、管理運営協議会設置要綱、寄宿施設等設置補助要綱
		・高校の給食の提供について
委員長	小林	質疑
委員	1 番 小椋	29年度議会報告会参加者の意見に対する回答の積み残し案件について、小椋委員から一括して質問
		1.第7次別海町総合計画に向けて考えている特色ある魅力づくりの取り組みを確認したい。
		2.行政と別海高校との連携体制、独自の支援について伺いたい。また、高校との意見交換の場があるのか、予定があるのか伺いたい。
		3.農業との関係についての別海高校の考えは伺っているか。
		4.コミュニティー・スクールについては、高校はどのように取り組んでいるか。
		5.間口確保について、長期的な計画の位置づけはどうなっていくのか。
		6.管理者に対する研修の具体的内容は。
		11:57 休けい
		12:59 再開

第4回総務文教常任委員会 要点記録

教育部長 山田

- 1.別海高校が道立高校であるため、側面的な支援をする立ち位置であるが、教育委員会としても第7次総合計画に向けては、入学者が増えていからこそ、これまでの取り組みの方向性は間違っていないと考えるので、第6次総合計画の取り組みを継続していきたい。
- 2.行政と高校の連携について、振興会という組織があり、町内関係者の相互協力により人材育成などに取り組んでいる。町として70万円ほど支出し、支援している。構成員は、高校の同窓会の会長、教育委員、PTA会長、後継者を育てる会の会長、商工会長、顧問として町長、議長、教育長という構成で、高校の校長も参加している。この組織を通じて、意見交換を行っている。
- 3.高校が事務局している別海町酪農後継者を育てる会の海外派遣事業に支援を行っているが、こうした組織の機能の中で意見を述べるなどして意見反映に取り組んでいきたい。
- 4.コミュニティー・スクールについては、別海高校の学校運営協議会に教育委員が参画している。中央学校区では、今後推進委員会が設置され、保幼小中がメインであるが、高校のコミュニティー・スクールに中央小の学校評議員も関わっているため、今後連携していく可能性があるのではないかと考える。
- 5.3間口の確保により、教員が2人、3年間で6人増員される。増員されることにより、授業の改善、生徒指導、部活動の充実などが行われ、結果的に魅力が高まっていくと考えている。第7次総合計画の中で施策を掲げていく。
- 6.管理人、調理の職員が釧路の同種の学生会館を視察し、実際の業務の動きを学び、管理人の心構え、考え方、対応を学んできたと同っている。

副委員長 森本

振興会は、一年に何回開催されているか。

教育部長 山田

会議は不定期ですが、年に一度の総会で事業計画を立てている。総会で確認されている活動計画の中には、間口確保に向けての要請活動、学校案内、ポスターの作成などを計画している。

委員 1 番 小 椋

コミュニティー・スクールは、27年から始まっているが具体的な成果は。

教育部次長 石川

具体的な成果は、手元に資料がないため答えられないが、道からの指定で全道に先駆けてコミュニティー・スクールに取り組むということで、1番最初に指定されており、24年からの開始と記憶している。

委員 1 番 小 椋

寄宿施設について、親御さんも知りたい情報を聞くことができた。親御さんに配布する資料の中に、町も含めた管理運営体制の内容が含まれているか。また、上春別、中春別など、学校ごとの進路の状況はどうなっているか。

学務課長 入 倉

教育委員会から保護者向けに資料は用意していないが、寄宿施設が独自に資料を作成している。また、学校ごとの進路の資料は、データとしては持っている。今後資料を作成する際にわかりやすくまとめるよう取り組んでいきパンフレットは見ることができるか。

委員 1 番 小 椋

現在、作成中でまだ見えていない。

学務課長 入 倉

教育部長 山田

パンフレットを単純に配るだけでなく、委員から頂いた意見の内容も掲載する方向で内容を考えていきたい。

委員 8 番 西 原

酪農経営科の学生数が減っている。このことに関して、議論がなされているか。どのような捉え方をしているか。

教育部長 山田

牛を借りて育成をしていたこともあったが、予算上、高校側で施設整備などの課題があり、牛を飼うことが難しかったようであるが、今後の議論に至っていないという状況なので、既存の各級会議で積極的に意見を聞いてい

委員 8 番 西 原

取り組みの成果が普通科の間口の確保に特化しているので、酪農経営科だけで学科がよいのかなど、町が踏み込んで言えないのかもしれないが、この

第4回総務文教常任委員会 要点記録

	まま進んで厳しい状況になる前に、町としても地元唯一の高校であり、地域への影響力が大きいので、その考えに立って意見を出していただきたい。	
委員長	小林	(5) 給食センターの建設について
給食センター長	入倉	内容説明
		配布資料により次の項目について説明を行った。 ・新給食センターの概要について ・配送方式について ・米飯ラインの設置について ・食育機能について ・整備計画の概要（工程スケジュール） ・図面
委員	8 番 西原	7月中に入札、仮契約、工事を着手する予定。
給食センター長	入倉	可能な限り高校の給食を検討すると以前聞いていたが。
		資料の説明と同じ説明になるが、国の補助を受けるので、基本的に高校の給食提供ができないと考えているが、可能性を探る。給食の提供能力は、2,000食/日で、32年度は1,900食/日、5年後の37年度は1,600食/日、10年後は1,580食/日程度の提供の見込みとなっている。
教育部長	山田	現状は、難しいと考えているが検討を進めたい。
教育部次長	石川	行政と高校の連携について、補足であるが、公民館はかなり前から高校の学校祭のときに絵画サークル、ドラムサークル、大正琴のサークルを披露する場を提供している。また、福祉牛乳配布時に酪農経営科に花、野菜の売り場を提供している。
		(6) その他
委員	8 番 西原	中央公民館から生涯学習センターの建て替えが予定されているが、2階の会議室に網戸をつけてほしいとの要望を受けた。利用団体から何か聞いていないか。
		私の耳には入っていないが、経費も含めて検討したい。
中央公民館長	内山	過去には老人室には要望があった。
教育部次長	石川	前にも言ったけど、つけてくれないんだよね、と言われた。
委員	8 番 西原	予算の範囲でできるようであれば、検討してほしい。
委員長	小林	老人室は窓が多く、建付けや網戸の枠が老朽化で傷んでおり、かなり経費がかかる。もう少し、待ってくれば、生涯学習センターができると説明し、ご理解を願っている。
教育部次長	石川	扇風機の設置は。
		用意して対応している。
副委員長	森本	
教育部長	山田	
委員長	小林	14:01 開会